

ふもと 織姫山の麓から

法玄寺報

第44号

令和3年秋



住職だけで千灯供養



新型コロナウイルスの感染がなかなか収束せず、当山で行う行事も思うように開催できません。毎年10月には、千灯供養と百万遍修行を行い、その後にコンサートを実施してきました。昨年はコロナ禍のためにどの行事も行えませんでした。千灯供養は、仏・菩薩および有縁無縁の精霊に灯明をささげる宗教行事なので、今年は住職だけで縮小して行うことにしました。

10月10日の日曜日の夜6時から、一切精霊祭壇の下の方の段だけにローソクを並べて点灯しました。幸い風もなく、秋の夜にローソクを灯すことができました。祭壇の前で住職が読経をして、有縁無縁の諸精霊へ回向しました。例年ですと、境内を200本以上の和灯で照らし、一切精霊祭壇前で参加者が輪になりローソクを回して祭壇の上から下までに一本一本点灯するのですが、今回は寺関係者だけで点灯しました。

来年はコロナも収束して、多くの方々に参

加していただき、輪になった人たちの手から手にローソクを回して一切精霊祭壇に点灯したいものです。また本堂に上がり、大きな数珠を輪になって回す百万遍修行も行いたいです。一刻も早くコロナが収束し、人が気軽に集まれるようになることを願います。



住職だけで行った千灯供養

本堂は土足禁止



今年も8月16日のお施餓鬼では、密集を避けるために新盆の方だけに上がっていただきました。例年、施餓鬼大法要の後に世話人の方々が卒塔婆を手渡ししました。しかし今年も昨年と同様に密集を避けるため手渡しを止め、卒塔婆を本堂の廊下に家名を五十音順に並べ、各檀家で取り出してお墓に建てるようにしました。

そうしたら本堂に土足で上がり、各家の卒塔婆を探す檀家の人が稀に見受けられるようになり驚きました。廊下は板張りなので、靴のまま上がってよいと思っただけでしょう

が、これには驚きました。このため、「土足禁止」と書いた張り紙を2枚本堂に上がる階段に設置しました。

若い人たちは寺に来ることが少なく、このような常識がないのかもしれない。お盆やお彼岸には家族で来て、お父さんやお母さんが子供たちに本堂への上がり方を教えてほしいものです。



本堂前に土足禁止と表示しました

カラス対策のバードネット



冬、鳥が苔を荒らすのでバードネットを掛けてきました。どうやら苔の下にいる虫を捕るために、苔を荒らすようでした。

春になり、花が咲き、昆虫が現れるようになると鳥害も少なくなり、ゴールデンウィーク前にはバードネットを外しました。ところがカラスがクチバシや足で苔を掘り起こし、荒らすようになりました。なぜ苔を荒らすのか、理由はよく分かりません。虫を取るのか、それともいたずらなのか不明です。そこで5



苔の上にバードネットを張りました

月にふたたびバードネット掛けました。お盆で墓参りをする檀家の方々に苔を直接見ていただきました。いのですが、少しでもバードネットを外すとたちまちカラスが来るので、仕方なく掛けております。カラス対策をご存じの方はぜひ当山までお知らせください。

切った木の再利用



山の墓地にある1本の欅にウロができて枯れかけて、倒れる危険性がでてきました。そこで数年前に根元から切りました。

大きな欅だったので、切って出た木材の再利用を考えることにしました。境内に置く長椅子や四阿あずまやに置く机などを



切った欅で作ったイス

予定していません。ところが木工工事を業者に出したところ、ウロができていたため木材は傷んでおり利用できる部分が少ないとのことでした。結局小さなイスしかできませんでした。境内にある四阿にあるイスは、この欅でできたものです。

仏教用語あれこれ 涅槃と涅槃図

仏教の開祖であるお釈迦様は、この世の苦の原因である煩惱をいかに克服するかを求めました。このような煩惱の火が吹き消された状態を涅槃と言います。その後涅槃は、お釈迦様の入滅を意味するようになりました。このためお釈迦様の入滅を描いた絵は、涅槃図と言われます。当山にも涅槃図があります。

当山の本堂は明治18年の火災で全焼しましたが、この掛け軸の涅槃図だけは奇跡的に残りました。ただ保存状態が悪かったため著しく損傷していました。そこで平成15年に、文化財修復の会社に依頼して修復を行いました。その際掛け軸のままだと、檀家の方にお見せするも難しいし、何度も巻き戻したりすると絵も傷むので額装にしました。



当山にある涅槃図

涅槃図では、お釈迦様が頭を北に向け、西を向いて入滅する様子が描かれています。周囲には沙羅の木が二本ずつ表され、平家物語で有名な「沙羅双樹の花の色、盛者必滅の理ことわりをあらわす」という表現が理解されます。皆様も当山にいらした折、ぜひご覧下さい。

除夜の鐘と除日の鐘



大晦日の伝統行事と言えば除夜の鐘です。当山でも毎年、檀家や近所の人たちと大晦日の深夜11時40分頃から煩惱を消すために百八回撞いてきました。

しかし昨年はコロナのため密集するのを防ぐことと、子供たちも参加しやすいうようにと、日中に除日の鐘を54回撞き、深夜に除夜の鐘を54回撞きました。

今年はまだコロナが収まらないうえ、子供が気軽に寺に来て鐘を撞けるので、昨年と同様に、以下のように除日の鐘と除夜の鐘を撞こうと思います。

除日の鐘	午前11時50分	54回
除夜の鐘	午後11時50分	54回

無料でどなたでも撞けますので、皆様お誘いあわせの上お越しください。特に除日の鐘には、ぜひお子様連れでお越し下さい。



除日の鐘



除夜の鐘

閻魔大祭と米粒名号



当山は閻魔様と呼ばれ親しまれている井草町の利性院を兼務しています。

利性院では 毎年1月と8月の16日に閻魔大祭を行ってきました。1月の大祭では近年、小さな米粒に南無阿弥陀仏と筆で書く米粒名号を实演し、お守りとして販売して、売り上げを被災地に寄付してきました。しかしコロナ禍のため、昨年の8月以来関係者だけで大祭を行ってきており、今年の1月の大祭でも米粒名号の实演もできませんでした。

現在ワクチンも普及して感染者も大きく減少してきました。そこで感染対策を施したうえで、来年1月の閻魔大祭と米粒名号の实演を一般の方々を交えて実施する方向で考えております。

なお今後の感染状況により実施するかどうかを決めることとなります。1月上旬、当山のホームページやフェイスブックで最終の案内をいたします。



米粒名号